

2. てんかん発作の症状

大脳は大きく4つの部分(前頭葉、側頭葉、頭頂葉、後頭葉)に分けることができます。そのどこか一部で発作が生じる場合を「焦点性てんかん」(発作)と呼びます。一方で、大脳全体が一気に発作を起こす場合もあり、これを「全般性てんかん」(発作)と呼びます。さらに、症状の始まりは「焦点性てんかん」発作でも、その後大脳全体に広がって「全般性てんかん発作」が現れることもあります。

焦点性てんかんの場合、発作を起こす脳の部位をてんかん焦点と呼び、その部位によって発作の症状は異なります。例えば、ある部位の発作では、思考や動作が止まったり、その場にそぐわない異常行動を繰り返したり、また別の部分の異常では手足や顔面がけいれんしたりするかもしれません。これらのてんかん発作の際に、自分自身で症状を自覚している(覚えている)人もいれば、全く自覚していない(覚えていない)人もいます。発作の症状が軽ければ、自分にしかわからないことや、他人が見ても気づかないこともあります。したがって、「だれも症状に気づいていなかった」とか、「それがてんかん発作だとは思っていなかった」とか、後になって詳しい症状が判明する場合があります。

自分でわかる症状

違和感を感じたり
独特の感覚を訴える



自分でわからない症状

行動異常やその記憶がない

全般性てんかんで多い症状は急に倒れて全身がけいれんする発作(全身けいれん)です。症状としては一番激しく、多くの人が抱くてんかん発作のイメージがこの症状かもしれません。その他にもボーっとして動きが止まる(欠伸発作)とか、一瞬体がピクツと震える(ミオクロニー発作)などの症状が見られます。

全身けいれん
(強直間代発作)



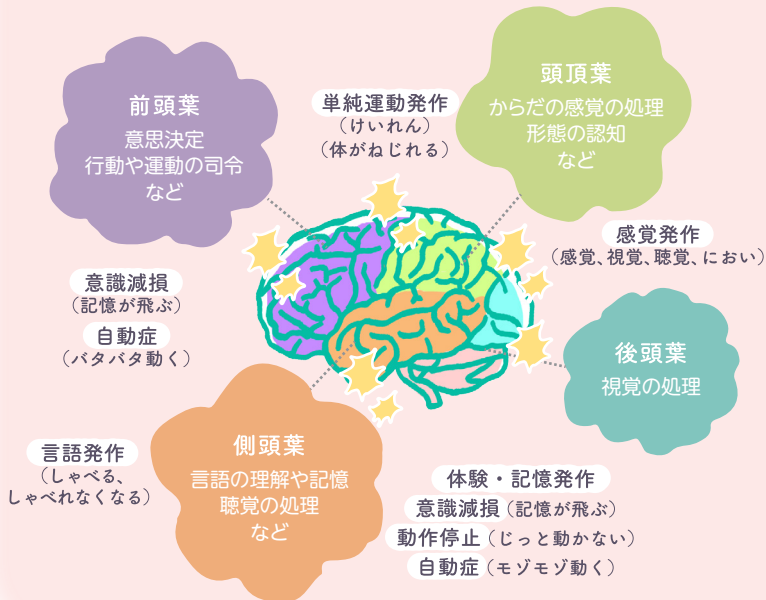
手の震え・ピクツキ
(ミオクロニー発作)



一時的にボーっとする
(欠伸発作)

てんかん発作の症状は 脳の働きと関係している

脳は大きく4つの部分(前頭葉、側頭葉、頭頂葉、後頭葉)に分けることができ、さらにそれは左右に1つずつ存在し、その部位ごとに役割分担があります。例えば、前頭葉には意思決定、行動や運動の司令を出す回路などが、側頭葉には言語の理解、記憶、聴覚の処理に関わる回路などが組み込まれています。そして、頭頂葉にはあらゆる体の感覚の、後頭葉には視覚の情報が処理される回路などがあります。どこの回路でてんかん発作が生じるかによって特有の症状が出ます。例えば、前頭葉の運動の回路に発作が起きればけいれんなどの運動症状が、後頭葉の視覚の回路に発作を起されば見え方に異常をきたします。認知や記憶の回路に異常が起きれば、発作の間のことを自覚できなかったり、記憶してなかったりすることもあるでしょう。



ME.3

てんかんの併存症：発作だけが症状ではない

てんかんは脳の病気であるため、正常な脳の働き自体にも影響を及ぼすことがあります。特に小児では、発達や学習の障害、成人では、認知機能の低下や性格変化などを伴うことがあり、これらをてんかんの併存症と呼びます。てんかんのある人では、発作だけでなく、このような併存症が生活上の困りごとになっている場合もあります。

